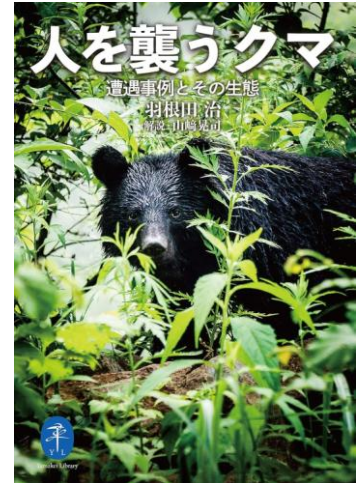


人を襲うクマ 遭遇事例とその生態 (羽根田 治 著)

7月初め下北半島の大尽山登山中に至近距離で子連れのツキノワグマと対峙する羽目となった体験をふまえ、山へ行かれる皆さんにも注意を促したく紹介します。本書は滑落や道迷い等山岳遭難の様々な事例を丹念に取材し、登山者に警鐘を鳴らしてきた著者が近年社会問題化してきた急増するクマによる人身事故に関し、「事故はどうして起きてしまったのか」を探り「山中でクマに遭遇した時の対処法」から更に「人とクマとの共存の可能性」へと問題提起する時宜にあったもので、参考にしてほしい。

本書は第1章から第4章まであり構成は以下のようになっている。



第1章 日高・カムイエクウチカウシ山のヒグマ襲撃事故 1970年7月、福岡大学ワングル部の男子学生5名が執拗に付き狙われ、荷物に拘った為3名死亡。

第2章 インタビュー 地元猟師が語る、秩父のクマの今 奥武蔵や秩父でクマの事故は無かったが、2016年は5月両神山、8月若御子山、10月笠山でクマの襲撃事件発生、猟師は山から人里へとクマのテリトリーが変わったせいという。

第3章 近年のクマ襲撃事故

- ① 雪山に出没 上越国境・仙ノ倉山 2007年12月末、毛渡沢林道で男性3名がクマと遭遇し、1名が耳を欠損する
- ② 乗鞍岳・畳平駐車場 2009年9月、観光客で賑わう駐車場でクマが大暴れ、現場はパニック状態となる。被害者10名、クマは体長136cm、体重67kgの雄。
- ③ 休日の山頂で 奥多摩・川苔山 2014年9月、ソロ男性。頂上直下で鉢合わせ、ヘリで救出される。顔や頭40針縫合。人気の奥多摩も決して安心できない。
- ④ 子連クマ襲撃 滋賀・高島トレイル 2015年5月、ソロ男性。尾根上で子連れクマと遭遇、両腕や後頭部等50針ほど縫合。ヘリで救出。
- ⑤ 山菜取り連続襲撃 秋田県鹿角市の山林 2016年5月、タケノコ採りの地元の男性死亡。続けて現場から500m程の山林で老夫婦が襲撃され夫が死亡。数日後ソロ男性が遭遇しカッターナイフで笹を切り竹槍を作り応戦し助かる
- ⑥ 里山に出没する 奥武蔵・笠山 2016年10月、キノコ採りのソロ男性、クマと対峙するも素手で抵抗、相手が逃げてくれ無傷で助かる。

第4章 クマの生態と遭遇時の対処法 遭遇したらまず彼らを刺激しないよう相対したまま、出来るだけ落ち着いてゆっくりと後ずさりし、目を合わさずその場から遠ざかるのが最良で、場合によっては死んだふりも有効である由。(AKA)

山と溪谷社 2017年10月 1600円

関連図書:「熊が人を襲うとき」 米田 一彦(まいた かずひこ) つり人社 2017・5

ツキノワグマによる人身事故についてもっと知りたい方に勧めます。大正から平成時代にかけてのツキノワグマによる人身事故を調査したもので、具体的に 100 件以上の事例を紹介。事故総数は 1993 件、被害者数 2255 人、死者は 55 人とあり事故後に亡くなった人もあり 100 人位になるというが、凡そ 90 年間でこの数、多いのだろうか？

ツキノワグマと遭遇した時は、慌てて背中を見せて逃げるのは危険、騒がず静かに後ずさりしてその場を離れるのが最良。超接近してしまった時に死んだふりして助かった事例もあるとの事だが、ヒグマに当てはまるかどうかは？？？

米田一彦：1948 年秋田県十和田市生れ。日本ツキノワグマ研究所理事長。秋田県庁・自然保護課に勤務しツキノワグマの生態調査に従事。1989 年広島県に移住し、当時絶滅が心配された中国地区のツキノワグマ保護に関わり全国に先駆けて「奥山放獣」を実践し、ツキノワグマ研究の第一人者。今は増えすぎたクマに戸惑っているかも・・・。